

【ご利用案内】



■ 何遠亭 (井上公園休憩所)

幕末、七卿落ちの際に三条実美を滞在させるために借り上げた井上光遠（井上馨の実兄）邸に増築された建物が何遠亭です。三条らは、新たな時代の到来を夢見ながら、この地で藩主や維新の志士たちと国事を論じました。つまり、この地は「明治維新」という歴史の転換点の重要な舞台のひとつであったのです。この建物は明治維新ゆかりの施設として、山口県文書館にある「七卿方山口御下り之節御旅館差図」などの資料をもとに何遠亭のおよその間取りを再現し、山口市内産の木材を使って平成27年に建てられました。

●開所時間／〈4月から10月〉10:00～17:00〈11月から3月〉10:00～16:00 ●閉所日／水曜、8/13～15、12/28～1/3

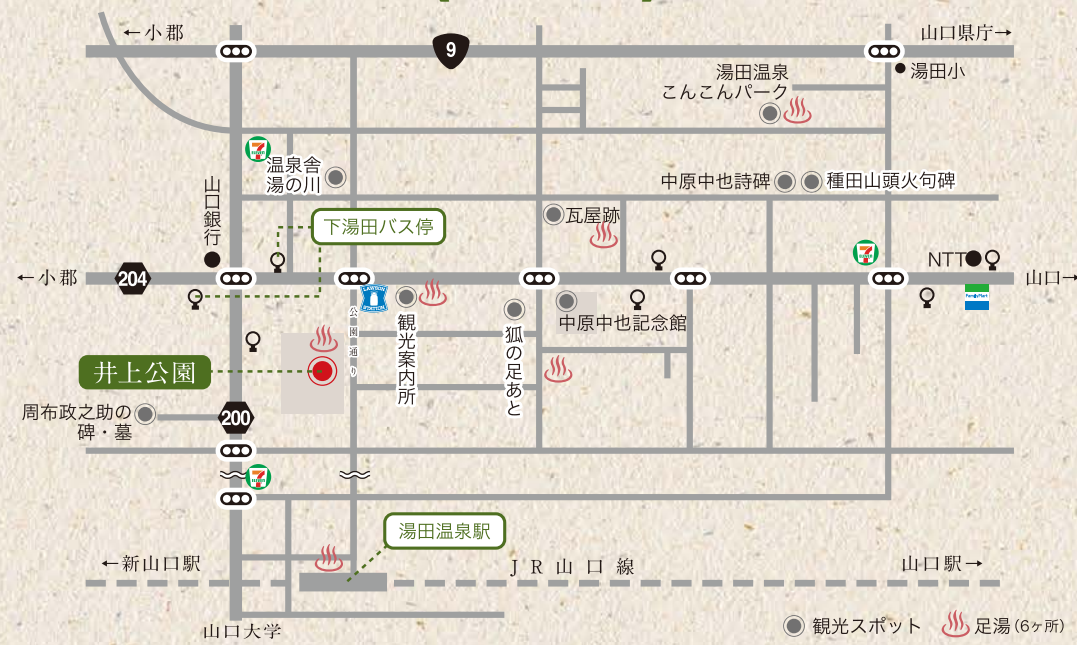
※台風等天候により休みとなる場合があります。※許可なく、飲食や長時間休憩はできません。※ペットを伴ってのご利用はできません。

■ 足湯

源泉かけ流しの足湯を無料でご利用いただけます。健康にもよいといわれる足湯を気軽にご利用ください。

●利用時間／10:00～22:00

【アクセス】



JRで…JR山口線新山口駅から湯田温泉駅まで約20分。下車後、徒歩約5分。

バスで…新山口駅北口（在来線口）バス停から下湯田バス停まで約25分。下車後、徒歩2分。



明治維新策源地
井上公園

明治の元勳 井上馨侯 生誕地



井上公園



この公園は、明治維新の大業推進に功績があった井上馨侯の生誕地として知られ、近隣住民や観光客の憩いの場所として広く親しまれている歴史公園です。



 井上馨侯の碑
(いのうえかおるこうのひ)

明治維新の元勳の一人・井上馨は天保6年(1835)萩藩士井上光亨の次男としてこの地に生まれました。四境戦争、鳥羽・伏見の戦いなどで明治維新の実現に貢献した後、新政府で外務大臣、農商務、内務、大蔵大臣などを歴任。その一方で実業界でも成功を収め、晩年は元老として政財界で重要な地位を占めました。明治40年、功績により侯爵となり、大正4年に興津で没しました。



幕末の志士・所郁太郎の本業は医師。元治元年(1864)9月の井上馨の袖解橋遭難の折に、刀傷を数十針も縫う大手術をして瀕死の井上を救ったことでその名を知られています。その後も高杉晋作に協力するなどしましたが、僅か27歳で吉敷の陣中にて病没。その功績を讃え、顕彰碑が建てられました。



幕末の文久3年(1863)、八月十八日の政変により長州藩士らとともに京から長州へと落ち延びた三条実美ら七卿の功績をしのび、大正15年に建立されました。詩人・中原中也の父・中原謙助は友人らとともに「湯田七卿遺跡保存会」を発足し、募金を募るなどこの碑の建設に深く関わりました。



※何遠亭の説明は裏面にあります。



古くから井上家にあり、その形から「龍尾の手水鉢」と呼ばれました。三条実美はじめ明治維新の志士たちも使ったと伝わります。井上侯の東京移住とともに一度東京に移されましたが、侯の銅像建立時に再び山口へと戻され、この地に据えられました。

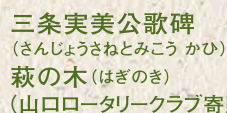
碑文にも、「もとの主人のそばに戻って手水鉢もよろこんでいるだろう」と記されています。



三条実美は、ここに身を寄せた頃をしのび、「君がためおもい来にけり旅衣 なれし二木の蔭は忘れず」と和歌を詠み、この木を懐かしんだといわれています。



室町時代中期、大内氏の別邸「築山館」造営時に豊後の大友氏から送られたと伝わる石。大正時代に瓢箪池を築庭した時、この地に移されました。遠い豊後を恋しがり、雨の夜には泣くという言い伝えがあり、「夜泣き石」と呼ばれています。



日本のランボーとも呼ばれる抒情詩人、
中原中也は湯田温泉の生まれ。昭和
40年に建てられたこの詩碑には、詩集
『山羊の歌』収録の「帰郷」の一節が
刻まれています。



自由律俳句で知られる俳人・種田山頭火。酒と旅と温泉を愛し、ここ湯田温泉にもしばらく滞在しました。この句碑は昭和37年に建立されたもので「ほろほろ酔うて木の葉ふる」という山頭火の筆による句が刻まれています。

